

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 109

学校名・団体名	熊本市立秋津小学校
HPアドレス	http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/akitues/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	元気を復興！目指せ、秋津小楠 ～勇気と自信、表現力向上～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>子どもたちを、勇気づけ、元気にする本物の芸術に触れさせ、校内研修による子どもたちの自尊感情を高め、自らを表現する力をはぐくむ取組みに重ねていくことで、被災を受け止め、前向きに自己表現する児童の育成を目指したい。</p>	

1 はじめに 4月14日と16日、秋津校区を2度にわたる震度6強の大地震が襲った。そのため、子どもたちの長期的・計画的な心のケアは、本年度の教育活動の要となった。傷ついた心のケアは、1対1のカウンセリングのみでは対応できないとされ、芸術活動や遊びなど、大人も交えた活動を通じて、ストレスを発散させることも必要だとされる。一方、本校児童課題である表現力向上を目指し、次のような教育活動を展開した。

2 実践内容

(1) 年間をとおした教育活動

① 校内研修による授業を通じた表現力育成「アクティブラーニングの手法を取り入れた指導法の工夫」

教職員は年間計画に従い、一人1回研究授業を行い、授業力向上を図っている。その中で、グループによる対話型学習で目標に迫り課題である思考力表現力の向上を目指した。班の中なら安心して自分の意見を表出する姿が増えた。

さらに、WYSH教育を通して、自分も友だちも大切にできる児童の育成を図ることができた。

つまり、こことここを合わせると18になるから、式での計算と同じ。



5年生算数 台形の面積

5年生算数 台形の面積

② 優れた表現に学ぶ「日本語タイム」

ア 目的：学習指導要領の「伝統的な言語文化に関する事項」に対応し、学年に応じた内容で古典に親しみ、触れ合う機会とする。名文や詩歌もと取扱い、優れた日本語表現に親しむ。

イ 実践

1年生から段階的に「百人一首」に段階的に触れさせる。始めは全て聞いてから取っていた札も、徐々に早く取ることができるようになった。6年生は映画の影響もあり、学級枠を越えた放課後の活動へと発展した。また、手遊びを取り入れた詩の暗誦にも取組み、体を動かしながら友だちとコミュニケーションを図る中で、思わず大きな声で表現する姿が見られるようになった。



10月「十五夜のもちつき」

9月「百人一首」

2学期の終業式には、全員で横井小楠先生の「送別の語」を暗誦し、取材に来たテレビ局を圧倒した。

(2) しかけ1 「本物にふれ、感動や表現するすばらしさに出会う芸術鑑賞会」の実施

10月18日 ～夢見る力、感動する心を！～劇団トマト座ミュージカル 「オズの魔法使い」

本校児童は、はじめにでも述べたように、自己を解き放って表現する力が弱く、そのために震災体験を表出することで克服していくことが難しい状況にあった。この資質改善の起爆剤として、本物に触れ感動する体験を計画実行した。つらい日常をひと時預けて元気をもらうことができただけでなく、目の前で演じる劇団員の大きな口、よく通るはっきりとした声、笑顔、大きな動き、目を見張りながら物語の世界に引き込まれ、全身での表現に憧れ、追体験する児童の姿があった。更に、震災被害の状況を劇団にお伝えし、実際に子どもたちに表現の指導をしてもらうことができた。次は、5年生が感動を綴った感想文である。

感想「オズの魔法使いを見て」 5年1組 橋本 秦実

今日の鑑賞会で学んだことは、まず「おなかから声を出す」ということです。のどから声を出すと、やっぱりきれいな声はあまり出ないし、遠くまでひびかないから周りの人が聞いていて「きれいだな」と感じるようになるには、「おなかから声を出す」ということが大切だなと思いました。次に学んだことは「物語の状況を理解して動きなどを考える」ということです。「今この人はどういう気持ちなのか。だからこういう動きをするだろうな」というのを考えることによって、見たりしている人がその登場人物の気持ちを理解しやすいし、その登場人物の気持ちにより近い気持ちを伝えられると思ったからです。それから、「1つ1つの言葉を大切にす」といふことがわかりました。強弱をつけたりははっきりと言葉を言ったりしていたので、とても聞こえやすかったです。このことを音楽会でいかせたらなあと思いました！



(3) しかけ2「目標 発表の場」の設定

11月18日 「校内音楽会」

音楽をとおして、思い切り自己発散したり、表現することのすがすがしさを味わわせ心を元気にすることを目的として実施した。また、学年毎に協力したり、お互いのがんばりや良さを鑑賞し合ったりすることで、伸び合う秋津っ子集団を育成できた。



思い切りのりのリスイング



感想「音楽会を通して学んだこと」 5年3組 古河 聡馬

今日の音楽会での合唱は、少し不安だった。僕たち5年3組で朝の会で歌ったりするとき、なかなか心を1つにすることができなかつた。本番までどうにか練習を重ねてきた。そして、本番になって歌うと心がつながったような感じがした。

合奏では、強弱という壁をのりこえられるかなあと思っていた。でもめあてだった「自分の力を出し切る」ということができたし、自分的には強弱もできていた。もう少し「力強さ」が表現できてよかった。最初はアコーディオンになれるまで手や肩が痛かったり、疲れると思っていた。でも、だんだん「つかれる」というより、「もっと上手になりたい」という気落ちが大きくなった。この気持ちが大きくなっていくとき、みんなもきっとこのじゅんかんに「心のつながり」というものに気づいたと思う。音楽会で学んだことは5年生全員が表現をとおして心が1つになれたこと。心がつながったじゅんかんは一生わすれられない思い出となった。秋津小が1つになったような気がした。

3 まとめ

目指すゴール「乗り越えさせていきたい震災に対して、表現できる、表現しようとする子どもの姿」

(1) 主体的児童会活動「表現集会」「読み聞かせ活動」「音楽集会」「児童集会」

ア 児童集会 (図書委員会) 劇「読書旬間へ向けて」

観劇教室の影響もあって、声もはっきり、演技も大きく、恥ずかしがっていた児童が堂々といきいきと表現している姿がみられ、本物を見ることの意義を強く感じた。今後の表現活動のよい方向性・手本を示してくれた。



イ 平和のリレー「6年生から5年生へ」

10月28日修学旅行から帰った6年生は、長崎で語り辺さんから聞いた「学んだことを伝えて、平和のバトンリレーをして欲しい」の言葉を守り、5年生へ「本気」を見事に表現した。圧倒的な6年生の言葉を真剣に受け止める5年生の姿があった。平和への思いはつながった。



ウ 読み聞かせ活動「5年生から新1年生へ」

秋津小の新リーダーの5年生は、就学時健康診断で来年の1年生に読み聞かせでリーダーデビューを果たした。声色を工夫したり、ジェスチャーを入れたりして表現し、小さな子どもたちを楽しませる頼もしい姿が見られた。



エ 代表委員会 「一歩も譲らない話合い、大事な学級の意見を全校の意見に」

この日運動会へ向けてのテーマ決めがなされた代表委員会。それぞれの学級から持ち寄られたテーマを出合い、最終的に1つに絞られていった。今学期その様子は大きく変わった。これまでは、6年生の発表が得意な子どものいる学級の意見が全体の意見になりがちだったが、どの学級もしっかりと根拠をもって、主張し合う白熱した会にすることができた。校内研修をとおして実践してきた対話型の主体的授業実践が、子どもたちの表現する力を高めた1つの成果である。



(2) 表現のまとめ (文集作り)

2年生 国語 短歌「親守詩」でくらしや心を表出

研究主任を中心に全校で「親守詩」の制作に取り組んだ。「親守詩」とは、五七五を子どもが作り七七を親が返信する共同制作である。

また、4年生は震災1ヶ月後から、俳句で自分のくらしを見つめ表現する活動に取り組んでいる。学年掲示板でお互いの生活を受け止め合いながら、1歩1歩日常を取り戻しつつあることが句からも伝わってくる。今後文集にして共有する。

父と母 まもってくれてありがとう
つよくにぎる手 ささえだったよ